

ifia/HFE KYOTO 2007 での食料産業クラスターマッチング

～食料産業クラスターに係る講演会・ブース出展及び知的財産セミナー～

1 イベントの概要

本年度の食料産業クラスター形成促進技術フェア（西日本）は、各地域で推進されている食料産業クラスターの認知向上を目的とし、食品化学新聞社が主催する ifia/HFE KYOTO 2007（第3回 秋季国際食品素材/添加物展・会議&ヘルスフードエキスポ（京都））と連携する形式で、平成19年11月28日～11月30日の3日間、国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）で開催された。

ifia/HFE KYOTO 2007 は、食品の機能性をメインテーマとし東京では12回、近畿圏では2回開催されている。近畿圏を対象とした今回の ifia は、従来のイベントに加え、「機能性食品と健康増進作用に関する国際会議」（ICoFF）及び、「ポリフェノールと健康国際会議」（ICPH）が同期開催され、食品の機能性イベントに国際会議がマッチングされた内容となっている。

食品の機能性は、食料産業クラスターを推進するための一つのキーワードとして、加工分野での付加価値獲得などの観点から、各地域でも取り上げられており、今回の食料産業クラスター形成促進技術フェア（西日本）は、より広範なカウンターの連携によりフェア実施の相乗効果を期待して開催したものである。

ここでは、ifia/HFE KYOTO 2007 との連携により企画検討を行い開催した「食品開発・マーケティングセミナー～食品産業と地域の活性化に向けて～*（開催日：11月28日（水）、開催場所：ifia イベントホール内セミナー会場）」、（社）食品需給研究センター、近畿農政局等が連携した「食料産業クラスターブース」及び（社）食品需給研究センターが主催した「食料産業における知的財産の戦略的利活用セミナー（開催日：11月30日（金）、開催場所：本館 Room H）」の様子を中心に報告する。

* 食品開発・マーケティングセミナー（講演演題）

- 13:00～ 食と地域を豊かにするフードアルチザン（食の匠）
イオン（株）食品商品本部コーディネーターグループ
フードアルチザン推進事務局 リーダー 仲元 剛 氏
- 14:00～ 酒造りから機能性食品素材を生み出す
月桂冠（株）総合研究所 所長 秦 洋二 氏
- 15:00～ ラブレ菌の機能研究
カゴメ（株）総合研究所 矢嶋 信浩 氏
- 16:00～ 食料産業クラスターの推進状況と今後の方向性
（社）食品需給研究センター 長谷川 潤一 氏
- 16:25～ 食品総合研究所～食品産業への貢献～
（独）農研機構 食品総合研究所
連携共同推進室 荒平 正緒美 氏



ifia/HFE KYOTO 2007（会場の様子）

2 食品開発・マーケティングセミナー

食料産業クラスターに見られる地域の枠組みによる開発される商品においても、いわゆるプロダクトアウト型以上に、買い手のニーズにマッチしたマーケットイン型での取組みが重要である。

セミナーは、サブタイトルを「食品産業と地域の活性化に向けて」と題し、はじめに、（社）食品需給研究センターが実施している食料産業クラスター促進技術対策事業の検討委員でもあるイオン（株）食品商品本部コーディネーターグループ フードアルチザン推進事務局 リーダー 仲元 剛 氏により、ユーザーである消費者視点に立った商品開発の必要性について、また、イオン（株）が推進するフードアルチザン（食の匠）の取組みの紹介も織り交ぜた講演が行われた。



食品開発・マーケティングセミナー講演の様子
（イオン株式会社 仲元 剛 氏）



食品開発・マーケティングセミナー会場
(イベント会場内にオープン・セミナー会場を設置)

ついで、地域の食品製造業者を代表して、月桂冠(株)総合研究所 所長 秦 洋二 氏による「酒造りから機能性食品素材を生み出す」、カゴメ(株)総合研究所 矢嶋 信浩 氏による「ラブレ菌の機能研究」と題した商品開発の講演が行われた。両氏とも、技術開発や商品開発のための課題設定、商品化のための取組み紹介など、地域枠組みにおける新商品開発の参考となる講演となった。

最後に、事業紹介として、当該食料産業クラスター事業及び(独)農研機構 食品総合研究所の紹介が行われた。

今回は、ifia イベント会場内に設けられたオープン・セミナーでの実施であったが、終始聴衆者が立ち寄り、地域食品関連事業者の、技術開発、商品開発、マーケティング、地域連携など、各テーマへの関心の高さを示す結果となった。

3 食料産業クラスターブースの設置とパネル展示

地域の食料産業関係者の技術シーズ、製品開発ニーズや地域枠組みによる課題解決の場の設置を目的とし、ifia イベント会場内に、(社)食品需給研究センターや近畿農政局を中心とした「食料産業クラスターブース」を設置した。

ブースでは、食料産業クラスター事業の紹介に加え、既に推進されている地域食料産業クラスターの成果報告展示、関連する機関、事業等の紹介が行われた。

ブース来場者の多くは、食料産業クラスターを利活用した地域活性化のための商品開発や販売戦略等の相談を行うなど、3年目を迎えた食料産業クラスターの認知・浸透が見られた。

また、ブースでは、技術シーズと製品開発ニーズの連携以外にも、地域自治体が推進する食を通じた地域の枠組み構築や地域の連携の主体となる組織担当者等からの相談を受けるなど、組織や立場を超えた意見交換の場が構築された。



ブース内での地域枠組み推進の意見交換
(自治体関係者の相談に仲元氏、近畿農政局担当者が応じる)

4 食料産業における知的財産の戦略的利活用セミナーの開催

ifia/HFE KYOTO 2007の最終日となる11月30日(金)13:00~14:30の1時間半、別室 Room Hにおいて「食料産業における知的財産の戦略的利活用セミナー」が開催された。

セミナーは、食料産業クラスター促進技術対策事業の知的財産の戦略的利活用アドバイザーグループメンバーである西浦 嗣晴 氏、高見 良貴 氏(両名とも西浦特許事務所弁理士)による知的財産権の解説が行われた。西浦氏は特許、実用新案について、高見氏は商標、意匠を中心に、実際の権利取得事例について図説を用い、戦略のあり方等を踏まえ解説された。

当日は、70名の会場ではあったが、食品製造業者(開発担当者や企画担当者等が中心)に立ち見も出るなど、多くの聴衆が参加された。



食料産業における知的財産の戦略的利活用セミナー

(文: 社団法人食品需給研究センター 長谷川 潤一)